

檢限寺 第2次発掘調査現地説明会資料

1980年9月13日 奈良国立文化財研究所 飛鳥藤原宮跡発掘調査部

1. 調査の経過

檢限寺は高市郡明日香村檢前に所在し、7世紀代に建立された、檢前氏をはじめとする東漢（やまとのあや）氏の氏寺として知られている。境内地には、東漢氏の祖とされる阿知使主（あちのおみ）を祭神とする於美阿志（おみあし）神社がある。また、塔跡には平安時代後期の十三重石塔が存在することで有名である。

当調査部は、飛鳥地域における寺院調査の一環として檢限寺跡の調査を行っており、昨年の南門推定地の第1次調査に引き続き、本年8月4日から第2次調査として、従来中門と推定されてきた土壇の発掘調査を実施した。発掘面積は約280㎡である。調査は現在進行中であるが、ここに中間的な概要を報告しておきたい。

2. 検出遺構

発掘調査の結果、3間×2間の身舎を持つ四面廂の礎石建物を検出した。発掘前の遺構は、東西18m×南北15m、高さ1.7m程の土壇状の高まりを呈しており、上面には花崗岩製の礎石が4個程露出していた。礎石は全部で11個確認できたが、棟通り中央の2ヶ所には礎石は存在せず、抜取痕跡も検出されなかった。したがって、3間×2間の身舎に四面廂の付く建物が復原でき、身舎部の礎石は完存していることになり、廂の礎石は棟通り西端の1ヶ所のみが残存していることになる。柱間寸法はややばらつきがあるが、桁行・梁行とも9尺等間とみられる。礎石は花崗岩製で、いずれも円形柱座が造り出されている。身舎部分の礎石の柱座は径70~74cm、側柱部は径62cm程である。建物基壇は粘土をつき固めた版築技法で造成されている。基壇の周囲には花崗岩を主体とした人頭大の河原石を敷き並べた幅1.1m程の犬走り状遺構が存在する。一番外側の石は立てて外縁としている。また、各辺中央部で犬走り状遺構の敷石部が切れ、そこに版築土が突出してくる場所があり、階段等の施設の存在が想定できる。敷石の欠ける部分は、南北両辺で約2.7m、東西両辺で約3.6mである。基壇の規模は、犬走り状遺構の内法で計測すれば、東西約15.5m×南北約12.9mとなる。一方、基壇外装施設に関しては、塔での所見と同様現在のところ手がかりがつか

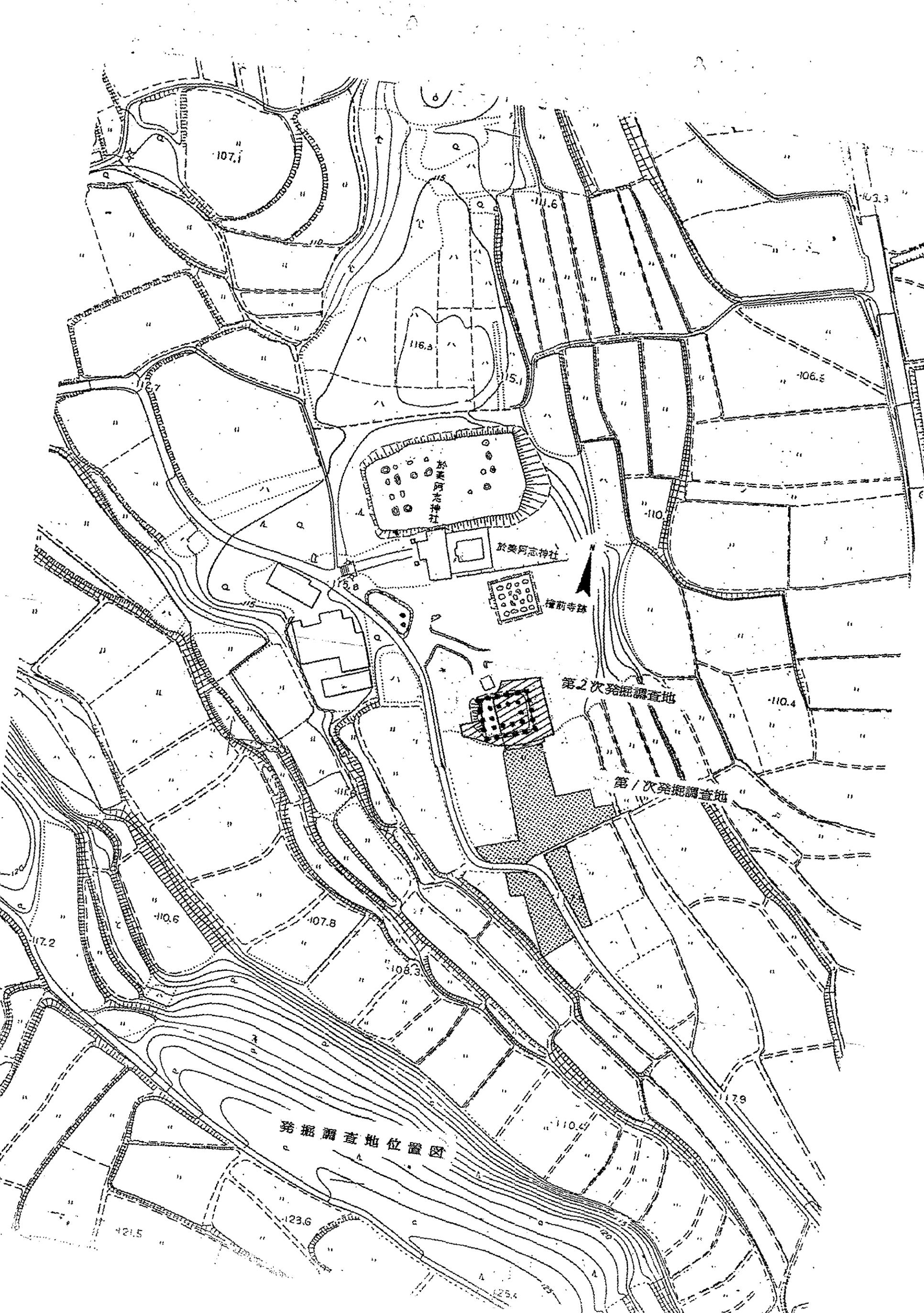
かめてない。

3. 出土遺物

出土した遺物には瓦、土器、鉄製品等がある。瓦類には軒丸瓦、軒平瓦、極先瓦、尾極先瓦、鬼瓦および多量の丸・平瓦がある。軒丸瓦は4型式ある。花卉に火焰と複子葉を配した蓮華文軒丸瓦、周縁に輻線文や粗い鋸歯文を配した複弁8弁蓮華文軒丸瓦、藤原宮式系の複弁8弁蓮華文軒丸瓦、平城宮6235系の複弁8弁蓮華文軒丸瓦である。軒平瓦は3型式ある。3重弧文や范作りによる5重弧文軒平瓦、藤原宮式系の扁行唐草文軒平瓦、東大寺式の均整唐草文軒平瓦がある。極先瓦は円形で、単弁8弁と複弁8弁の2種類がある。尾極先瓦と推定される瓦は26cm×21cmの大きさで方形である。中心に円圈付蓮子を6段4列計24個格子状に配列する複弁16弁蓮華文瓦である。土器は、7世紀代の須恵器や土師器が極少あり、また平安時代末期の土師器や瓦器および近世の灯明皿等がある。金属製品には鉄釘、鉄製のかすがい等がある。

4. まとめ

今回の発掘では、3間×2間の身舎に四面廂を持つ礎石建物を確認した。この建物の年代は、出土瓦類を手がかりにすれば、輻線文を持つ複弁8弁蓮華文軒丸瓦や3重弧文軒平瓦が主体をなすことから、7世紀代後半に比定できる。従来この場所は中門に推定されてきたが、身舎の存在や柱間が等間であることなど、門に比定することには問題が多い。また、今回の調査遺構の北東に存在する塔の基壇の年代が今回調査の遺構の年代よりも一時期新しい8世紀代と考えられることや、両者の遺物方位が異なることなどから、伽藍配置に関しては未確定な要素を多分に残している。今後の調査に期待するところが大きい。



107.1

116.5

106.8

110

110.4

110.6

107.8

106.3

第1次発掘調査地

第2次発掘調査地

檜前寺跡

於美阿志神社

発掘調査地位置図

121.5

123.6

125.4

120

117.9

110.4

103.3

111.6

115.1

117.2

120

125

120

125

120

125

120

125

120

125

120

125

120

125

120

125

120

125

120

125

120

125

120

125

120

125

120

125

120

125

120

125

120

125

120

125

120

125

120

125

120

125

120

125

120

125

120

125

120

125

120

〈参考文献〉

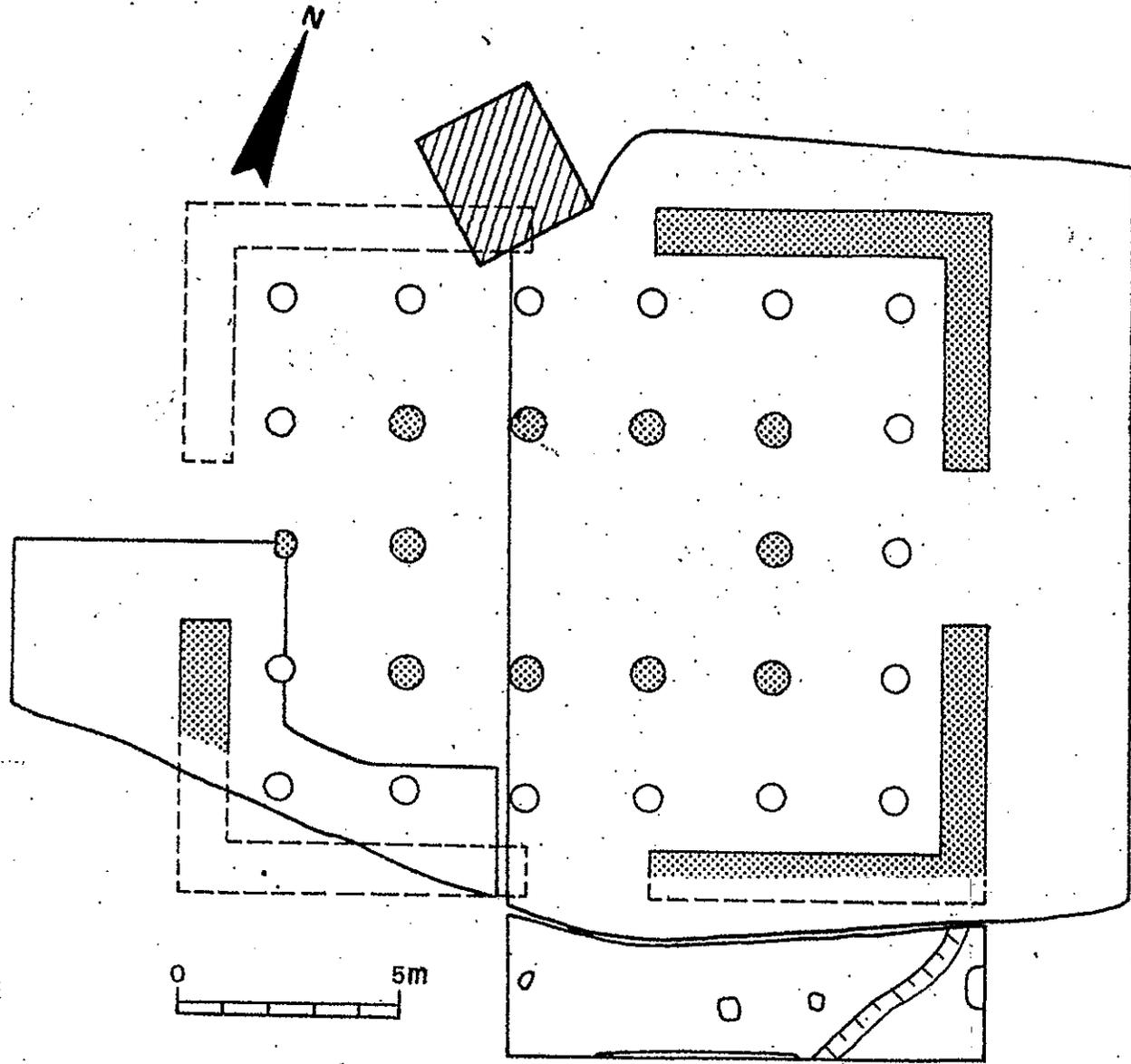
(日本書紀)

朱鳥元年八月己丑 松隈寺 輕寺 大窪寺 各封百戶限卅年

(清水寺緣起)

道興寺

字(松前)寺^{云々} 右大和国高市郡松前郷
件所者 先祖阿智王入朝時 恩給地也 仍建立寺^{云々}



發掘調査遺構配假図